

【通貨ニュース】

# アジア経済の概況

－ レーダーチャートでみるマクロ経済現状 －  
(IMF予測や外貨準備の観点から)

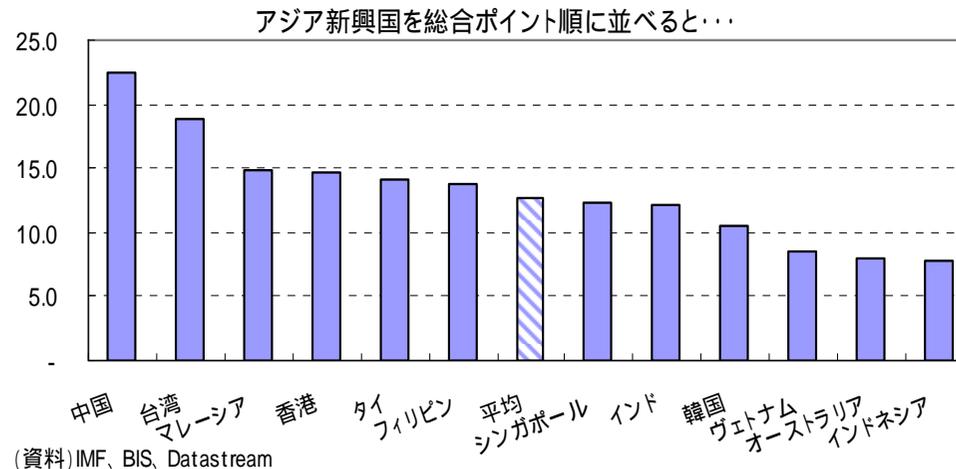
2009年6月17日

みずほコーポレート銀行  
国際為替部

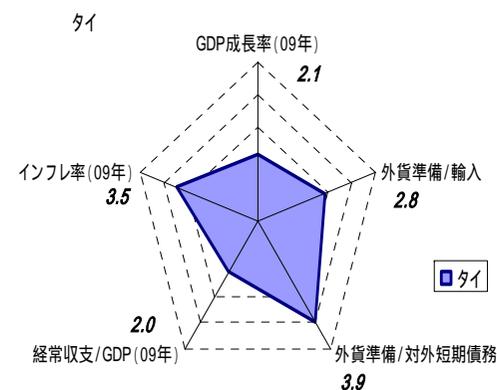
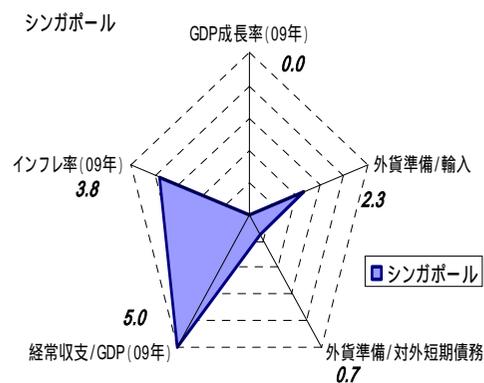
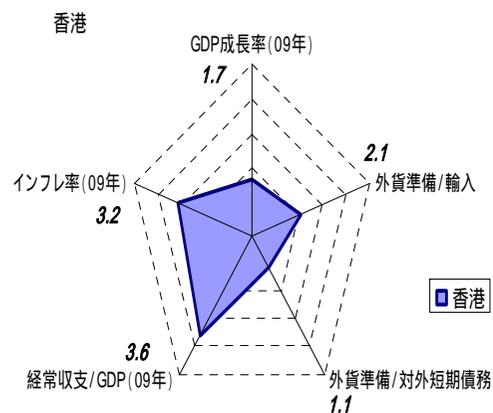
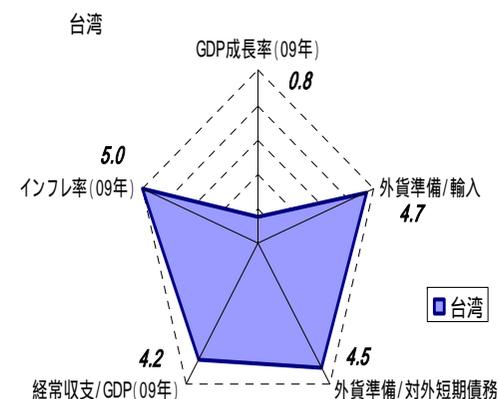
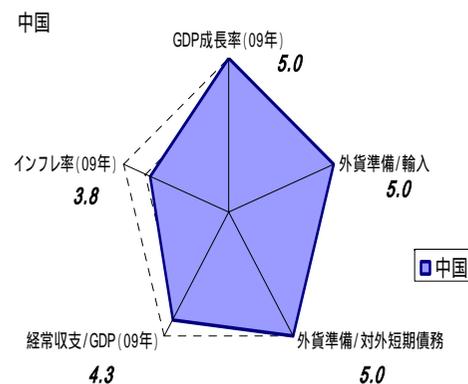
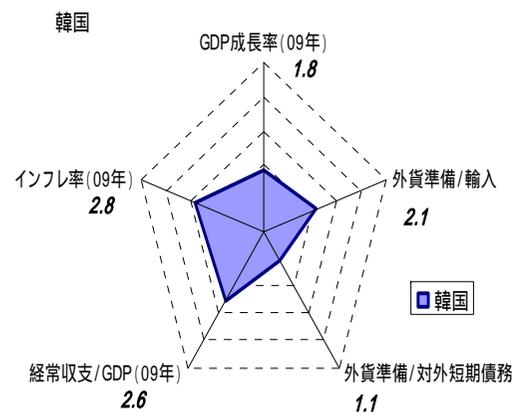
# マクロ経済指標でみるアジア経済

## レーダーチャート分析について

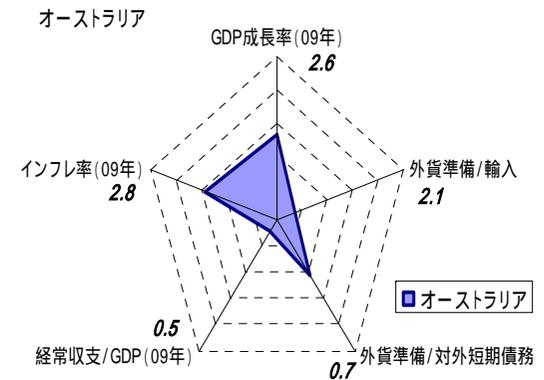
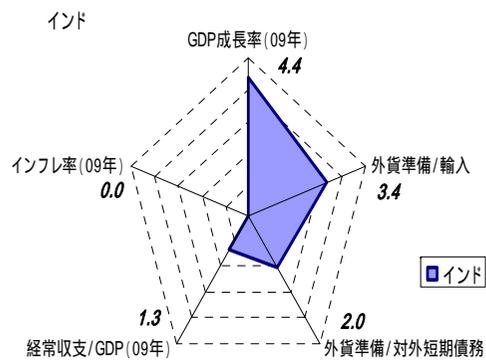
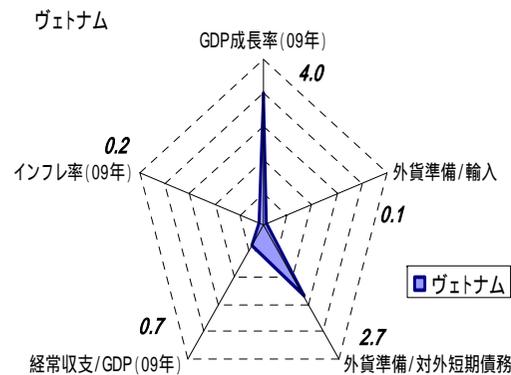
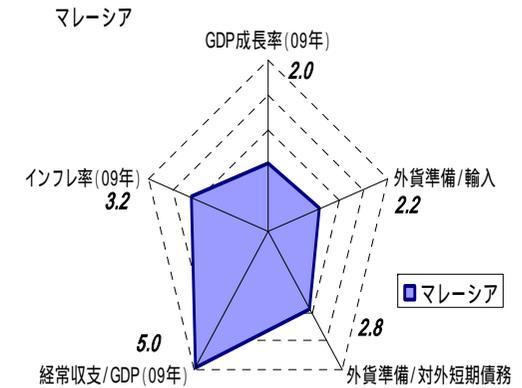
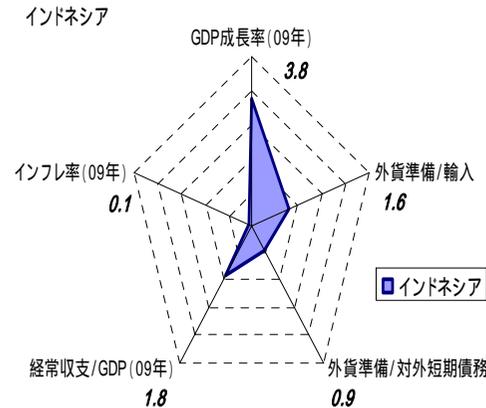
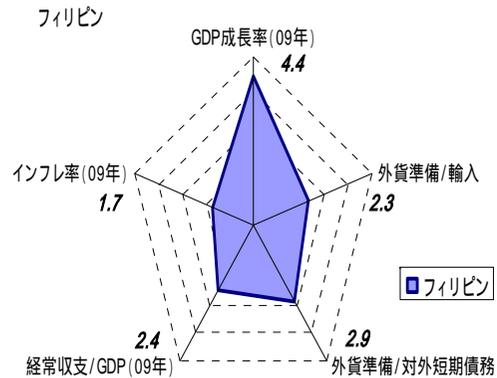
- GDP成長率(2009年見通し)、外貨準備/輸入、外貨準備/対外短期債務、経常収支/GDP(2009年見通し)、インフレ率(2009年見通し)の5項目について相対的な強さをレーダーチャートで表している。下表は5項目を等ウェイトでみた場合の総合ポイント上位10カ国。
  - 巨額の外貨準備を持つインドが下位に位置するのは、アジアの中では対外短期債務が相対的に高めになること、経常収支が低いこと、そしてインフレ率が最も高いことが背景にある。
  - 必ずしも総合ポイントの高低が経済の強弱を意味するわけではないが、新興国の対外経済部門を考える際、「通貨危機への耐性」としての目安になる。
- ◆ 今後の注目としては今次局面で米国依存のリスクが顕在化した「輸出依存・外貨準備蓄積型」の成長モデルに変化が生じるか否か。中長期的には「内需依存型」の成長モデルが志向されるだろうが、それには家計の消費行動や産業政策の変更等も想定され、一朝一夕には期待できない。当面はアジア域内需要を活かす輸出依存型の経済が志向されるのではないか。



# 参考：マクロ経済指標でみるアジア経済



# 参考：マクロ経済指標でみるアジア経済



# 参考：マクロ経済指標でみるアジア経済

(補足)：レーダーチャートの原数値について

- チャートにプロットした各項目の原数値については以下の通り。
- 成長率、外貨準備の厚さ、経常収支で中国が頭一つ抜け出ている。

## アジア総合ポイント上位10か国

	GDP成長率 (%、09年見通し)	外貨準備/輸入 (月)	外貨準備/対 外短期債務	経常収支/GDP (%、09年見通し)	インフレ率(%、 09年見通し)
中国	6.5	19.7	18.8	10.3	0.1
台湾	-7.5	17.2	13.8	9.7	-2.0
マレーシア	-3.5	5.7	5.3	12.9	0.9
タイ	-3.0	7.6	10.2	0.6	0.5
フィリピン	4.6	6.1	5.5	2.3	3.4
シンガポール	-10.0	6.0	1.6	13.1	0.0
香港	-4.5	5.5	2.0	7.2	1.0
インド	4.5	9.6	3.3	-2.5	6.3
韓国	-4.0	5.7	2.0	2.9	1.7
オーストラリア	-1.4	3.1	3.5	-5.8	1.6

(資料)IMF、BIS、Datastream

国際為替部為替営業第一チーム

唐鎌大輔

4

# マクロ経済指標でみる各国経済 参考

## 補足:レーダーチャートの作成方法

### < データの出处 >

- 外貨準備/輸入: 外貨準備はDatastreamより各国最新時点。輸入額もDatastream(出处:IMFデータ)を使用し、直近12か月の単月平均額を使用。
- 対外短期債務: 対BIS報告銀行ベースの1年未満債務。2008年12月時点 (資料) BIS「国際与信統計」
- GDP成長率、経常収支、インフレ率: 全てIMFによる2009年春季の予測値 (資料) IMF World Economic Outlook,2009 Spring

### < 数値の計算方法 >

- アジア大洋州13カ国を対象に各々の数値について偏差値を計算し、最大値が5、最小値0となるようにプロット。
- 「外貨準備/輸入」と「外貨準備/対外短期債務」は対数値に変換した上で、偏差値を計算し、0~5へプロットしている。なお、インフレ率については数値が高いほど評価が低くなるように調整している。

- 
- ◆ 当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。
  - ◆ 当資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的として作成したものであり、特定の投資戦略を勧誘するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。
  - ◆ また、当資料の著作権はみずほコーポレート銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。